

良いとこ自慢・・・自分の園所が自信をもって誇りに思えるような取組
ここを改善・・・主にこれまでの特定教育・保育施設評価の中で課題・改善点として挙げた内容の取組

<p>教育・保育目標</p> <p>健康でがんばる子・遊びを考え出す子・助け合う子</p>

項目	園の現状や取組、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組内容	成果	評価
共通課題	<ul style="list-style-type: none"> ○新型コロナウイルス感染症予防対策について ・登園直後の手洗いに始まり、極力密を避けるように環境設定(トイレ前足型表示・シールド等)保育後の消毒を実行。 子ども自身がソーシャルディスタンスを意識し活動しようとしている。 ・遊びの熱中度が高くなると密になる場面もある事と熱中症対策との両輪が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、密を避けるなどの意識を、子どもたちが負担を感じないように続けていく。園児たちなりにコロナ禍について正しい理解・人権意識をもつ。 ・活動場所や場面、活動の仕方などを工夫しながら、現状の様子を見極めて熱中症対策と共に最大の留意をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスについて正しく理解出来るように伝えると共に、継続して登園直後や友達と共有の遊具を使った後など、丁寧に手洗いをする習慣付けをしている。 ・暑さピーク時には園庭に日影が出来るように工夫し、遊びの進め方では密にならないようにする為の方法を子ども達と共に考えるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗いが必要な場面では教師が促さなくても自分たちで行動出来ている。活動が制限される等これまで通りいかなくても新型コロナウイルスが原因であると理解し極端にストレスを感じてはいないと見受ける。 ・子どもたちが“新しい生活様式”として様々なことをとらえられるようになり、遊んでいる最中に友達同士で「密なりそう!」と声を掛け合っ気をつけてられる姿も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染予防のための対策として、トイレ前に足型表示を貼る、食事・制作等でテーブルを使用する際はシールドを設置して座席の配置を工夫する、食後の待機場所確保にフープを使用する等配慮し、子どもがソーシャルディスタンスを負担に感じない環境となるよう取り組んでいる。 併せて、遮光遮熱暗幕を設置し活動に合わせて適宜開閉する等、熱中症予防対策も行われている。 ・絵でわかりやすく工夫されたカードを使って説明したり、保育者が場面ごとにプラス思考になるような言葉で子どもを褒めたり、丁寧な声かけを繰り返すことで、子どもが手洗いやマスク着用・3密について理解し、自発的に取り組める習慣化につながっている。
良いとこ 自慢!	<p>(保育内容面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊びや子どもの姿の中に込められている学びの要素や支援のポイントを共有し、それらを意識して保育に取り組もうとしている。 ・子どもたちが主体的に遊んだり、主体的に物事を進めたりする場面に真に必要な学びがあり、それを支えるには園や担任の自由度と支援のポイントがかかわることを意識してきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』を的確に意識し一つ一人一人の子どもについて印象的な場面を記録にまとめ、それを保護者に伝えることで幼児期に必要な学びを共有出来るようにする。 ・主体的活動の姿と支援のポイントを職員間で共有できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と学びを共有するという目標を持ち、一人一人の学びの節目について『キラリポイント記録シート』を作成した。それを全職員で共有し、そのとらえ方について交流している。 ・“子どもたち発の気持ちや考え”を待ちそれを感じ取って保育することと、望ましい学びを確かにするための支援のしどころを見極めらえるよう話し合ったり交流したりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・『キラリポイント記録シート』を職員で交流することで10の姿の読み取りへ繋がる機会を持つことが出来、多面的な読み取りやその深まりへ通じている。さらに一人一人を見ようとする意欲や、より良い記録シート作成への手立てとなっている。 ・全職員が保育にかかわって主体的な活動を促す保育へと向かえている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外遊びでは、異年齢の子どもも一緒に遊んでおり、社会性を育む配慮がなされている。また、子ども同士のぶつかりあいに対して、本人たちの意見を聞きながら細やかな指導が行われている。普段の生活の中でグループでの活動も多く取り入れられ、お互いに支え合って何かを達成する経験を豊かに得ている。
	<p>(管理・運営面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園務分掌や職員の役割について、適材適所に、職員本来の力が発揮されている。 ・今年度のコロナ禍において、保育の考え方を含めた保育の内容を保護者に伝えるように、可能な限りの手立てを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割分担の確認・見直しをしながら職員皆が気持ちよく職務を遂行出来るようにする。 ・保護者に一堂に集まって頂き直接保育説明をすることは難しい状況が続くと予想されるので、動画や画像・パワーポイント資料などを使って、伝えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの職務をその都度確かめ合い、感謝し合える雰囲気づくりをしている。 ・数人に分かれて保育参観して頂く機会をもらって『キラリポイント記録シート』にて、一人一人の育ちを保護者にもコメント記入して頂き、学びの共有をしようと取り組んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・気持ちよく職務が遂行されていることで、互いに認め合うことが出来、自らより良く運営していこうという雰囲気がある。 ・分散しての参観で、普段の子ども様子を見て頂くだけでも安心感がうまれた。また、新たな取り組みに期待感を感じてくださっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員各々の得意分野を活かせるよう、指導計画・パソコン・畑づくり・室内外環境整備等の業務を分担し、自発的に意欲を持って取り組んでいる。園長が中心となり職員が互いを認めて感謝しあえる雰囲気づくりに努め、職員も方針を共有し、気持ちよく職務を遂行できる職場環境を共に作っていこうという雰囲気につなげている。 ・子どもの日々の成長場面を捉えた様子を、写真とコメントにより詳細にクラスだよりに掲載し、また、ホームページの掲載頻度も増やし、コロナ禍においても、保護者に園での子ども様子が伝わるよう工夫している。保護者の協力のもと、コロナ感染予防に努めながら、写真展示や分散参観・運動会を実施したり、「キラリポイント記録シート」を活用する等、子どもの成長を共有できる機会づくりに取り組んでいる。
ここを 改善!	<p>(保育内容面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育場面をとらえて、教師間で互いに保育や支援についての感覚を伝え合い、交流は出来ているが、保育を系統だてて伝達することが出来ていない。 ・コロナ禍の中で行事が持てず、子どもたちの成長を保護者が感じ取り、それを子どもに返していく機会を持っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育や子どもの様子の中から、それらについての根本的な見方・考え方を職員交流しながら継承していく。 ・行事や、成長を共感出来る場について職員間で知恵を出し合い好機を作り、保護者の実感が子どもに伝わるようにすることで、子どもたちの自信に繋げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育場面や幼児理解が必要な場面をとらえて、その都度感覚的交流をし、より良い支援の在り方を学びつつ、指導案を元に園内研修会をしている。 ・子どもたちが興味関心をもった虫について保護者と共に飼育の仕方や種類について質問したり、調べたりして保護者にも保育にかかわっていただく機会をもった。その様子をクラスだよりや簡単に発表する機会をもつこととした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教師間でよく伝え合うことにより、信頼関係の構築がなされ、クラス担任を替わって保育する機会を設けることも出来、新たな保育・支援の考え方を受けとめ合っている。指導案を元にするのでお互いに修正・交流すべきことが明確になりその場面だけでなくあらゆる場面でも活かせるよう気付きを抽象的に共有しようとしている。 ・共通の話題をもち、かつ子どもたちが熱中して調べたり虫を大事にしたりする姿に学びの過程を感じておられたように思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれ個性のある子どもたちが、のびのびと生活できるように保育の工夫がなされている。4歳については興味関心に沿った形で遊びを展開できるようにしている。5歳については一人一人の興味を生かしながら、クラス全体として調べたり探求したりといった深い活動がなされており、就学に向けて必要な力を伸ばしつつ、達成感に満ちて子どもたちが過ごしている。 ・自分たちの思いや願いが十分に聞き届けられ、探究するような活動においても自分の意思で題材を選択したり、あるいは仲間と折り合いをつけたりするような機会が多くある。その中で互いを尊重するように保育が進められているため、自尊感情が育まれると同時に他者を大切に思う気持ちも育っている。
	<p>(管理・運営面)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の子どもについては、職員間でよく話し合っているが、保育内容や学びについて、支援教諭を含めた共有する為の時間が持てていない。 ・一人一人の職員の迷いや悩みにじっくり向き合っ話し合いの場を持つことが出来ていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に保育伝達の為の会・時間を確保し、職員全体でつかんでいけるようにすると共に、具体的な保育についての記録を閲覧出来るように、伝わりやすい資料をつくる。 ・一人一人の職員と話し合いをもつ時間を具体的に設定し、より良い運営をめざす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案を元にした園内研の話し合いの中の留意ポイントを共有記録したり、その他の保育場面をとらえてその留意ポイントについて重ねて話し合う機会を持っている。 ・職員間の雰囲気を確認しつつ、一人一人について、仕事内容やその他のことについても考えや悩みを聞けるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6時間勤務の教師との共有時間確保が難しい現状ではあるが、短時間の中で出来るだけポイントをとり交流・伝達できる工夫が確立されてきた。単発場面でも記録を残しつつ共有することでさらに積み上げていけると感じている。 ・個々の為の機会をもつことで“何時でも話し合える”安心感を持たた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・打合せや職員会議の中で気づきや課題について意見交換を行い、振り返りや学びの機会としている。また、園内研修の中では、保育について主体性を育む場面等をピンポイントで捉え、職員間で意見交換を行ったり、経験豊富な教諭からアドバイスを受ける機会を設けている。園長が保育を分析した内容や留意ポイントについて文書を作成することにより、6時間勤務の教諭も含め全職員が、短時間で効率的に交流・伝達し、研修内容の共有と蓄積につながる工夫が行われている。 ・9月に個別面談を行い、職員個々にゆっくり話を聴く時間を設けたことにより、相互理解が深められたと共に、職員の「いつでも相談できる」という安心感や信頼感につながっている。